

右京三条一坊一坪・二坪の調査

―第552次

調査の経緯と目的 本調査は、国土交通省による史跡朱雀大路跡等の整備にともなうもので、朱雀門前における朱雀大路の規模、ならびに平城京右京三条一坊一坪・二坪やその間を通る三条条間北小路の実態をあきらかにすることを目的として実施した。詳細は次年度の紀要で報告する予定である。

調査地は、右京三条一坊一坪・二坪の朱雀大路に面した東側に位置する。調査面積は北区356㎡、南区440㎡の計796㎡、調査期間は2015年12月16日から2016年3月30日までである。

周辺のこれまでの調査 今回の調査地である右京三条一坊一坪・二坪は、平城宮の正門である朱雀門の南西に位置する平城京の街区にあたる。当研究所や奈良市教育委員会による過去の調査で、朱雀大路の東側溝は、左京三条一坊一坪・二坪付近では幅3.8～4.5m、西側溝は、平城宮南面大垣付近では幅約2.5m、右京三条一坊三坪・四坪付近では幅約3mであることが判明している。二条大路北側溝との合流点付近における朱雀大路の規模は、東西側溝の心の間で約73.9mであった。

右京三条一坊一坪・二坪では、奈良県立橿原考古学研究所が今回の調査地の西方で発掘調査をおこない、三条条間北小路をなす南北両側溝を検出した。その規模は、北側溝が幅約1.3m、南側溝が幅約1mで、側溝の心間距離は約6.5m、三条条間北小路の路面の幅は約5.1mと発表している（奈良県立橿原考古学研究所『平城京右京三条一坊一・二・七・八坪 発掘調査現地説明会資料』2015年12月20日）。このほか、今回の調査地と朱雀大路をはさんだ東対称位置にあたる左京三条一坊一坪・二坪とその周辺の調査成果によると、一坪の北辺・西辺・南辺には築地塀等の遮蔽施設がなく、広場として利用されてきた可能性が高いと指摘されている。

調査の成果 主な調査成果は以下の4点である。

第一に、北区・南区あわせて、朱雀大路西側溝を計約40mにわたって検出した。朱雀大路の規模は、朱雀大路をはさんで東対称位置にある、左京三条一坊一坪・二坪の調査による東側溝の成果とあわせると、側溝の心間距離で約74mとなる。これはこれまでの調査で判明している

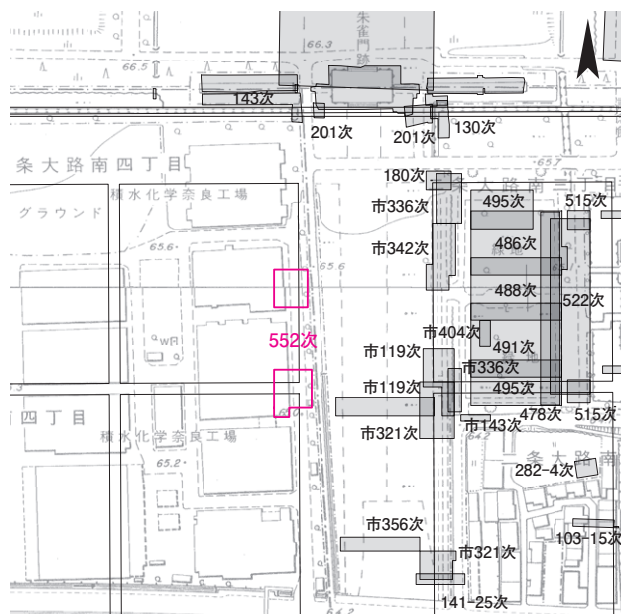


図214 第552次調査区位置図 1:4000

朱雀大路の規模と整合する。今回の調査では、これまでの調査よりも大きな面積で西側溝を検出したことにより、朱雀大路の規模や平城京の排水計画を検討するための十分な資料を得ることができた。

2つ目の成果としては、右京三条一坊一坪の南北を二分する位置付近で東西溝を検出した。この位置は、左京三条一坊一坪で検出した坪内道路北側溝の位置とほぼ一致する。またこの溝と朱雀大路西側溝の接続地点で、朱雀大路西側溝を渡る橋の遺構を検出した。この2点から、右京三条一坊一坪にも坪内道路が存在したと推測できる。坪内道路の幅については、北側溝と橋との位置関係などから、さらに検討が必要である。

3点目として、三条条間北小路の南北両側溝を確認した。その規模は両側溝の心間距離で約5.5m。二坪を区画する築地塀は削平されたと考えられる。しかし、雨落溝に相当する素掘溝を検出し、また周辺から出土した多量の瓦類の存在から、本来築地塀が存在したと推測できる。これは左京三条一坊二坪の成果と共通し、左京・右京とも二坪は、朱雀大路に面する東辺と、三条条間北小路に面する北辺に築地塀が築かれていた可能性が高いことがあきらかとなった。

最後に、右京三条一坊一坪は、少なくとも東辺と南辺に遮蔽施設がない可能性の高いことが判明した。左京三条一坊一坪にも遮蔽施設がないことが判明しており、朱雀門前は左京・右京の三条一坊一坪を取り込んだ東西約260m、南北約140mにおよぶ広場的な機能をもつ空間であったとみられる。このことは、朱雀門前の利用方法を考えるうえで重要な成果といえる。

(丹羽崇史)



図215 北区全景（南西から）



図216 南区全景（北から）



図217 北区朱雀大路西側溝完掘状況（南西から）